



南浦和中だより



第 7 号
平成 29 年 11 月 1 日(水)
さいたま市立南浦和中学校
さいたま市南区辻 6-1-33
Tel. 048-863-0753
さわやか相談室 直通
Tel. 048-837-5909

《学校教育目標》日に新た 心豊かに たくましく

「たくましい子にな～れ！」

校長 益子 慶次



スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋といわれるように、何をするにも絶好の季節です。10月は、たくさんの行事がありました。まずは新チームで挑んだ市新人体育大会。勝利に喜び、敗北に涙した1週間でした。8組の長瀬合同宿泊学習では、生き生きとしたたくさんの笑顔を見ることができました。そして、生徒会立会演説会。厳粛な雰囲気の中、生徒たちの素晴らしい運営で行われました。また、市教育委員会計画訪問では、「生徒一人ひとりが、真剣に前向きに取り組んでおり、とても明るく、あいさつも素晴らしい」と誉められました。雨の中、初めて実施された駒場競技場での市中学校駅伝大会。苦しい練習を乗り越え、大健闘しました。文化センターでの合唱コンクール。素敵な歌声とともにたくさんの感動を得ることができました。生徒たちの「一生懸命」な姿をたくさん見ることができました。保護者、地域の皆様には行事ごとにあたたかい声援を頂き、誠にありがとうございました。

さて、「昔は、家族の人数が多く、日々が戦いであった。ご飯のおかずひとつでも負けていけない。兄弟が5人も6人もいて、大皿に『みんなでこれ食べよう。』これはもう必死だった」ということです。(ちょっと大げさではありますが!)また、昔、小学校の先生から、幼稚園卒と保育園卒でも強さが少し違うと聞いたことがあります。環境によって人は変わるといえるのでしょうか。

ここ数年、女性が生涯に出産する子どもの数は平均で1.42人(H27)、2人に満たないそうです。家庭における子どもの数は、確実に減ってきています。その分、親がその子に世話をやく時間と期待が増えてきているのです。Jリーグユースの指導者の話です。「試合のとき、タオル・水筒・着替え等は、自分で用意するのが当たり前です。それを親が用意してしまったら、子どもは育たない。たくましくなれない。考える力もつかない。自分でやらなければいけないことを、親が取り上げているのです。」

中学生の頃は、親から離れ、試行錯誤を繰り返しながら、自分の生き方を模索し、他人との交わりを通して、自我を育て確立していく時期です。この試行錯誤がとても大切なのです。子どもが、大人から見ればくだらないことをしていたり、迷っていたりすると、大人は答えを知っているから、ついつい近道を教えたくなるものです。子どもだけで行動すると、当然失敗や挫折もあります。親としては子どもの失敗や挫折を見るのはとても辛いものです。しかし、よく考えてみれば、私たちもたくさんの失敗や挫折を繰り返しながら大人になってきたわけですから、そのおかげで、仕事や人間関係で困ったことも、これまでの体験の中から貴重な解決策を考えられるようになったのです。子どもが少なくなった今、手をかけすぎて、子どもの主体性や自立心を摘み取ってはならないのだと思います。例としてはふさわしくないかもしれませんが、芋虫は突然蝶にはなりません。必ずさなぎの時期があります。さなぎのときは中を見ることができません。無理矢理中を見ると死んでしまいます。自己解決して、完全変態をし、立派に育っていくのです。まさに中学生がその時期にあります。自分の子が何を考えているかわからない

という時があって当たり前なのです。しかし、間違ったことをした子どもには、その時の気持ちや状況を聴き、間違いを気付かせるのは中を見ることと違います。今、我々親、教師達がやるべきことは、きちんと見守り、子どもが壁に当たったとき、すぐ解決してあげるのではなく、何とか子どもの力で乗り越えられるよう考え、仕向けてあげるのだと思います。安心して蝶になるために・・・!

